

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 三重県教育委員会
2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

本事業を通して、子どもの成長に応じた小・中学校の円滑な接続のための取組を推進するため、先導的な取組を行う県内の市町等教育委員会による域内全域での小中一貫教育の推進に資する効果的な取組を支援し、普及を図る。委託先市町においては、9年間を見通した特色ある教育活動を展開する中で学力向上、生徒指導、中一ギャップの解消、キャリア教育、郷土教育等についての研究を行う。小中一貫教育を推進するための体制の構築、学校設置者等との連携を図る。

(2) 事業の実施状況

年度途中での事業開始となったため、約半年間の取組となった。主な取組としては、全国各地で行われた小中一貫教育に関するフォーラムや研究発表会等への参加、先進校視察を精力的に行い、小中一貫教育への理解を深めた。小中一貫教育推進会議を開催し、本事業実施3市の取組の進捗状況や、課題等について情報交流をはかった。また、元東京都三鷹市教育委員会教育委員である貝ノ瀬滋様を講師として招き、助言をいただくとともに、小中一貫教育を広めて行くための方策等について講演いただいた。実施市においては、研究指定校を設置し、授業づくりの研修やカリキュラム編成会議、リーフレット作成等に取り組んだ。

(3) 事業の成果

桑名市では、小中一貫教育研究推進講演会、小中一貫教育準備協議会を開催し、小中一貫教育を進めていくにあたっての現状、課題等を共有し、方向性を示唆することができた。

いなべ市では、「いなべ市小中一貫教育推進計画」を策定するとともに「小中一貫教育リーフレット」を作成し、地域・教職員に向けての周知を行った。

名張市では、「小中一貫英語教育カリキュラム」を作成し、来年度からの小中一貫英語教育導入に向けての準備を行った。また、研究推進校において、先進校視察や研究協議を重ねる中で、小中一貫教育への教職員の理解が深まり、推進に向けての具体的な議論を行った。

(4) 今後の取組予定

国の動向に注視しながら、事業実施3市の取組状況、成果、課題を把握し、継続して連携を図り、小中一貫教育の取組を支援する。

(具体的な取組)

- ・学校設置者との小中一貫教育推進体制の構築、協議会の開催
- ・小中一貫教育の成果・課題把握のための学力・学習状況等との調査研究
- ・小中一貫教育の先進的取組事例の収集・分析
- ・小中一貫教育で得られた知見を小学校・中学校における小中連携に活かすための効果的な取組の研究と好事例の普及啓発
- ・研修企画課と連携し、小中一貫教育の研修会を開催
- ・合同発表会等において、小中一貫教育に取り組んでいる市、学校の発表等を通して、広く県内での取組となるよう推進する。
- ・県教育委員会の「学Viva通信」等で小中一貫教育に取り組んでいる学校等の情報を発信する。

4. 取組Ⅰの実績

(1) 取組のねらい

本事業を通して、子どもの成長に応じた小・中学校の円滑な接続のための取組を推進するため、先導的な取組を行う県内の市町等教育委員会による域内全域での小中一貫教育の推進に資する効果的な取組を支援し、普及を図る。

(2) 取組Ⅰの実施状況（平成27年度）

10月	
11月	・教育フォーラムin名張へ参加 ・県教頭会研究大会での指導助言
12月	・小中一貫教育推進会議（協力市町担当者間の情報共有。講師による講演、助言、指導等の実施）
1月	・小中一貫教育講演会（名張市）への参加 ・小中一貫教育全国サミットinならへの参加
2月	・三重県教育研究指定校等合同発表会において貝ノ瀬滋先生を講師として招聘し、助言を頂いた。
3月	・小中一貫教育推進会議（今年度の総括と来年度に向けての事業実施市町担当者間の情報共有。）

(3) 取組の成果

・小中一貫教育推進会議等で事業を実施している3市の取組状況を把握することができた。
・各地サミットやフォーラム、研究大会に参加することにより、先進県、先進校等の取組報告を学ぶなど小中一貫教育に対する理解を深めることができた。

(4) 今後の取組予定

・学校設置者との小中一貫教育推進体制の構築、協議会の開催
・小中一貫教育の成果・課題把握のための学力・学習状況等との調査研究
・小中一貫教育の先進的取組事例の収集・分析
・小中一貫教育で得られた知見を小学校・中学校における小中連携に活かすための効果的な取組の研究と好事例の普及の啓発

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	再委託予定額
Ⅱ-1	桑名市教育委員会	1,400,000円
Ⅱ-2	いなべ市教育委員会	1,372,000円
Ⅱ-3	名張市教育委員会	1,400,000円

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－１

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 桑名市教育委員会

住所 : 桑名市中央町2丁目37番地

代表者職・氏名 : 教育長 近藤 久郎

2. 取組の名称 : 9年間を見通した魅力ある教育活動への調査・研究

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

義務教育9年間を通して、子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成のため、学習指導や生活指導に関する課題をはじめ、小中学校間の段差から生じる諸問題を解消しつつ、これまでの中学校区で取り組んできた小中交流・連携を推し進め、小中一貫教育の調査研究を進める。小中一貫教育に関して先進地視察を行い、全国の先進的な取組や桑名市の実情にあった取組から学ぶことや、大学の講師を招聘することにより、今後の桑名市の小中一貫教育の方向性を模索する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

12月	・姫路市立白鷺中学校視察（18日）
1月	・名張市小中一貫教育講演会（6日） ・小中一貫教育研究推進講演会（奈良教育大学 赤沢早人準教授）（8日） ・中野区第十中学校合同研究発表会（22日） ・第10回小中一貫教育サミットinなら（29・30日）
2月	・静岡市教育委員会行政視察（15日） ・松江市佐太小学校視察（16日） ・京都大原学院視察（18日） ・三鷹市立第一中学校視察（19日） ・品川教育フォーラム（20日） ・第1回小中一貫教育準備協議会（奈良教育大学 赤沢早人準教授）（8日）
3月	・第2回小中一貫教育準備協議会（奈良教育大学 赤沢早人準教授）（2日）

(3) 取組の成果

・小中一貫教育を進めるにあたっては、「施設一体型」「併設型」「分離型」と形態が違う。先進地視察を行うことにより「施設一体型」「併設型」において小中の職員室が同室になっているところは、日常的な管理職の連携から教師への指示が大変スムーズであり、子どもたちの細かな変化にも十分に対応できていることが実感できた。

・視察を行った学校は、4・3・2制（前・中・後期制）を取り入れていた。中期に当たる小学校5年生から、教科担任制や定期テストの導入、乗り入れ授業等を行い、従来の中1の段差を軽減する取組が見られた。中学校の教師が、日常的に小学校で授業を行うことにより、子どもたちの抵抗感は軽減されている。

・前期最高学年である4年生の役割、従来の6年生の役割、9年生の役割等は明確にすること。段差をなくすことの意義が大きいと思われがちであるが、必要な段差もある。

・小学校、中学校の教師の指導方法の違いを分析し、子どもたちの目線に沿って授業が行えるよう研修が進められている。例えば、話す速さ、使う言葉、板書のスピード、字の丁寧さ等、どちらかの教師に合わせるという意識ではなく、9年間の子どもの発達状況や実態に合わせて、新たにつくりあげていくというイメージで進められていた。

・一体型、分離型の違いはあっても、義務教育9年間を終えた段階でどんな子どもに育ててほしいか、目指す子ども像を設定し、全職員が共有する意識が持てなければ、教育活動の効果は上がらない。

・職員、保護者、地域の方への理解は、時間がかかるが、丁寧に進めていく必要がある。

・分離型は、教師、子どもたちの移動等で、バスが必要であるなど、財政面で苦慮する場合がある。

・小中一貫教育研究推進講演会、小中一貫教育準備協議会では、講師を招聘し桑名市で小中一貫教育を進めていくにあたっての現状、課題等を共有し、方向性をご示唆いただくことができた。

(4) 今後の取組予定

・義務教育の様々な問題は、本市に教育行政や学校現場に課せられた喫緊の課題です。課題解決の一つの方策として、小中一貫教育の研究・推進について「桑名市教育大綱（平成28年度策定）に位置づけ、本市の望ましい学校教育のあり方について「学校教育あり方検討委員会」を立ち上げ、審議を行います。今年度多くの視察先で、学ばさせていただいたことの中で特にスタートとして大切である「目指す子ども像」を設定し、小中学校の職員間で共有する中で取組を進めていきます。今年度は、指定した地区の管理職を中心に小中一貫教育のよさを実感していただきましたが、今後は、より多くの先生方にその良さを感じていただける機会を増やしていきたいと考えます。

また、小中学校の滑らかな接続のために、9年間共通カリキュラムの作成、小学校での教科担任制、中学校区における地域との連携等についての取組を進めます。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－２

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : いなべ市教育委員会

住所 : いなべ市大安町大井田2704番地

代表者職・氏名 : 教育長 片山 富男

2. 取組の名称 : いなべ市あたらしい学校づくり

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

子ども達の「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育み、主体的に自らの未来を切り拓く力や豊かな人間関係を結ぶ力など一人ひとりの可能性を最大限に引き出すために、「目指すべき子どもの姿」を明確にし、その姿を学校・地域・家庭が共有し、現在の小中連携をさらに推し進め、9年間の義務教育に責任を持った「9年間の学びと育ちを繋ぐ教育」の推進。

(2) 取組Ⅱの実施状況 (平成27年度)

10月	<p>①いなべ市における小中一貫教育の取り組みに向けた組織と体制づくりに向けた検討 (※資料1 いなべ市小中一貫教育推進計画)</p> <p>(1) いなべ市小中一貫教育検討委員会 (INB9) の立ち上げ準備</p> <p>(2) いなべ市小中一貫教育カリキュラムの作成検討</p> <p>②各中学校区新しい学校づくり拡大WG会議の開催</p> <p>③小中一貫教育先進校への視察</p> <p>【視察1】</p> <p>(1) 視察先: 広島県呉市立和庄中学校区</p> <p>(2) 視察日: 10月15日 (木)</p> <p>(3) 内容: 小中一貫教育公開研究会</p> <p>【視察2】</p> <p>(1) 視察先: 広島県呉市立郷原中学校区</p> <p>(2) 視察日: 10月29日 (木)</p> <p>(3) 内容: 小中一貫教育公開研究会</p> <p>④講師を招聘した授業研究会</p> <p>9年間の国語のカリキュラムの作成に向けて校内研修への助言・指導</p> <p>(1) 対象校: 員弁中学校区員弁東小学校</p> <p>(2) 招聘講師名: 臼井智美 (大阪教育大学准教授)</p>
-----	---

11月	<p>①各中学校区新しい学校づくり拡大WG会議の開催 (1)「家庭学習の手引き」「生活の手引き」の原案提示 <u>(※資料2 楽しく豊かな学校生活を送るために)</u></p> <p>②各中学校区授業づくり研修 (1)北勢中学校区 中学校区での授業スタイルの統一に向けた授業づくり研修 (2)員弁中学校区 9年間の国語のカリキュラムの作成に向けた検証授業 授業公開校：員弁東小学校 招聘講師名：臼井智美(大阪教育大学准教授) (3)大安中学校区 中学校区での授業スタイルの統一に向けた授業づくり研修 (4)藤原中学校区 算数「比例」の学習に焦点を当てた指導系統の確立に向けた検証授業</p> <p>③小中一貫教育先進校への視察 【視察1】 (1)視察先：京都府宇治市 小中一貫校 宇治黄檗学園 (2)視察日：11月2日(月) (3)内容：学校視察研修 【視察2】 (1)視察先：広島県呉市立下蒲刈中学校区 (2)視察日：11月5日(木) (3)内容：小中一貫教育公開研究会</p> <p>④いなべ市小中一貫教育推進計画の策定(平成27年11月12日) (1)いなべ市小中一貫教育検討委員会(INB9)設立準備会の立ち上げ (2)いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム作成委員会の立ち上げ</p> <p>⑤講師を招聘した授業研究会 (1)対象校：員弁中学校区員弁中学校 (2)招聘講師名：臼井智美(大阪教育大学准教授)</p>
12月	<p>①いなべ市小中一貫教育検討委員会(INB9)準備会の開催 ②いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム作成委員会(各部)の開催 ③各中学校区新しい学校づくり拡大WG会議の開催</p>
1月	<p>①いなべ市小中一貫教育検討委員会(INB9)準備会の開催 ②いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム作成委員会(各部)の開催 ③各中学校区新しい学校づくり拡大WG会議の開催 ④三重県指導主事等県外視察への参加 ⑤小中一貫教育研究大会への参加 (1)大会名：小中一貫教育全国サミットin奈良 (2)参加日：平成28年1月29日(金)～30日(土)</p>
2月	<p>①いなべ市小中一貫教育検討委員会(INB9)準備会の開催 ②いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム作成委員会(各部)の開催 ③各中学校区新しい学校づくり拡大WG会議の開催</p>
3月	<p>①いなべ市小中一貫教育検討委員会(INB9)準備会の開催 ②いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム作成委員会(各部)の開催 ③各中学校区新しい学校づくり拡大WG会議の開催</p>

(3) 取組の成果

- ① 楽しく豊かな学校生活を送るために (※資料2)
当初予定していた、「学びの手引き」「家庭学習の手引き」「生活の手引き」を統合し「楽しく豊かな学校生活を送るために」という題名で作成し、原案が完成した。
- ② 「いなべ市小中一貫教育推進計画」 (※資料1) を策定し、その中で「いなべ市小中一貫教育検討委員会 (INB9)」の設立を掲げた。今年度は、準備委員会を7回実施し、平成28年度の本格的な始動に向けて準備を整えた。
- ③ いなべ市教科別カリキュラム作成委員会を立ち上げ、カリキュラムを作成した。
(※資料3 いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム)
平成28年度5月のいなべ市教育研究会総会にて、いなべ市内全教職員に周知・説明する予定。
- ④ 藤原中学校・員弁中学校区小中一貫教育グランドデザインの作成
(※資料4-①、4-②)
小中一貫教育を可視化する一つ的手段として、作成。今年度は、完成には至らなかったが、平成28年度に引き続き検討する。
- ⑤ 保護者向け「小中一貫教育リーフレットの作成」 (※資料5)
保護者にいなべ市が進めようとしている小中一貫教育について理解と協力をいただくために小中一貫教育検討委員会 (INB9) で作成した。3/15を目処に入稿し、平成28年度4月の授業参観の際に実施される学校説明会時の資料として活用。

(4) 今後の取組予定

- ① 楽しく豊かな学校生活を送るために
平成28年度1学期中に各校からの意見を中学校区でまとめ、原案を修正。平成29年4月1日付けで、市内全保護者に配布する。
- ② 「いなべ市小中一貫教育基本方針」の策定
いなべ市小中一貫教育検討委員会を中心に今後のいなべ市の小中一貫教育の指針としての基本方針を作成する。
- ③ いなべ市小中一貫教育コーディネーターの配置
各中学校に2名の小中一貫コーディネーターを配置する。また、「いなべ市新しい学校づくり拡大WG会議」の名称を「いなべ市小中一貫教育推進WG会議」とする。小中一貫教育コーディネーターは会議のミドルリーダーとなり、会議の運営を進める。
- ④ 藤原中学校区・員弁中学校区小中一貫教育グランドデザインの完成
藤原中学校区は、平成29年度4月開校に向けて、員弁中学校区は平成28年11月のプレ研究発表会に向けて完成を目指す。北勢中学校区、大安中学校区については、検討を開始する。
- ⑤ 小中一貫した「未来いなべ科」カリキュラムの検討
- ⑥ 小中一貫した「人権教育」カリキュラムの検討
- ⑦ いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラムの完成
- ⑧ 各中学校区における小中一貫教育教科領域別カリキュラムの検討
教科別カリキュラムを領域別に掘り下げ、各校特色ある領域別カリキュラムの検討に入る。また、授業研究も同時に行い検証する。
- ⑨ 員弁中学校区小中一貫教育研究プレ研究発表会の開催
平成29年度の発表会に向けて、プレ発表会を開催する。(11月)

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－３

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 名張市教育委員会

住所 : 名張市鴻之台1番町1番地

代表者職・氏名 : 教育長 上島 和久

2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

- ・小学校6年間、中学校3年間という括りを取り払い、様々な教育課題の解決を目指し、子どもの育ちに合った9年間の一貫した、系統性・連続性のある教育の在り方の検討。
- ・研究校（1中学校、1小学校）を指定し、英語教育・ふるさと学習・キャリア教育等を切り口とした研究の推進。
- ・小中一貫教育研究協議会を設置し、研究校の研究の成果と課題を検証するとともに、名張市としての小中一貫教育の在り方の検討。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成27年度）

8月	・事業受託内定 ・実施計画等の作成
9月	・研究校を指定（つつじが丘小学校・南中学校） ・学校・地域説明会の実施（9/15, 9/19） ・研究指定校による組織づくり・年間計画作成 ・研究指定校による取組開始 ・小中一貫教育推進のための教育ビジョンに係るパブリックコメント実施
10月	・学校・地域説明会の実施（10/5, 10/14） ・第1回小中一貫教育研究協議会（10/15） 研究の方向性について協議 ・小中一貫教育全国サミットの参加（三条市）（10/22・23） ・研究指定校研修会（10/28）
11月	・先進地視察1（奈良市教育委員会、飛鳥中学校、飛鳥小学校）（11/4） ・先進地視察2（呉市教育委員会、川尻中学校、安浦中学校、安登小学校）（11/9） ・小中一貫教育フォーラム（講師：京都産業大学西川信廣教授「小中一貫教育の意義と可能性」主に市民対象）（11/14） ・小中一貫教育コーディネーターを配置（11/16～2/25） ・英語教育カリキュラム作成開始 ・先進地視察3（京都市教育委員会、松陽小学校）（11/25）
12月	・PTA説明会の実施（12/5, 12/16） ・名張市版小中一貫教育リーフレット作成（教職員・保護者対象）

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回小中一貫教育研究協議会(1/6) ・小中一貫教育講演会(講師:呉市川尻中学校二宮肇美校長:保・幼・小・中学校教員、事務局職員対象) ・名張市版小中一貫教育リーフレット配布(教職員・保護者対象) ・英語教育カリキュラム完成 ・第3回小中一貫教育研究協議会(1/26) ・小中一貫教育全国サミットへの参加(奈良市)(1/29・30)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校研修会(2/6) 本年度の研究の成果と課題の検証及び次年度の計画 ・三鷹市立第一中学校研究発表会参加(2/19) ・品川区教育フォーラム参加(2/20) ・小中一貫教育推進のための教育ビジョン策定
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書等提出

(3) 取組の成果

<p>◇本年度は、「名張市立小中学校の規模・適正化後期実施計画」及び「第2次名張市子ども教育ビジョン」を策定し、市として、小中一貫教育推進の方向性を定め、体制づくりをすすめた。</p> <p>◇「名張市版小中一貫校リーフレット」を作成し、市民・教職員に向けての周知を行うとともに、「小中一貫英語教育カリキュラム」を作成し、来年度からの小中一貫英語教育導入に向けての準備を行った。</p> <p>◇研究推進校においては、先進校視察や研究協議を重ねる中で、小中一貫教育への教職員の理解が深まり、推進に向けての具体的な議論が行われた。</p>
--

(4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> (1) ふるさと学習カリキュラム (2) キャリア教育カリキュラム (3) 生活規律・学習規律スタンダード (4) 名張市版小中一貫校リーフレット(2) (5) 調査研究成果中間報告書 <p>平成27年度作成の「小中一貫英語教育カリキュラム」に基づき、1年生からの英語教育を実施するとともに、ふるさと学習、キャリア教育のカリキュラム作成と5・6年生の段階的な教科担任制や異学年交流等によって、児童生徒の学習意欲を高めるとともに、中一ギャップの解消に向けて取り組む。教職員は、研究校を初めとして小中一貫教育の取組を実践し、研究の検証結果を市内全域で共有するとともに小中一貫教育の意義を実感する。また、保護者・地域住民とともにある学校づくりを目指して、保護者・地域住民が参画する学校運営の体制を作り上げる。</p>
